

着

mono 通信

yoroduya

2022・11 vol.50



原町本店
〒975-0003
南相馬市原町区栄町2-83
TEL: 0244-24-2929

いわき店
〒970-8026
いわき市平三倉69-8 第2地産ビル1F
TEL: 0246-85-5298

みなさまこんにちは！今年も残り2ヶ月となりました。月日の経つのは早いですね。今年は秋になるのが早かったような気がします。10月も平年を下回る気温の日があったりと、暖房器具も早々と準備しました。さて、みなさま新米は召し上がりましたか？毎年のことながら、新米の季節はご飯が進みます！そんな新米と同じように新蕎麦の季節でもありますね。その年に収穫された蕎麦が新蕎麦で、年内くらいまで新蕎麦というそうです。福島県も美味しい蕎麦が採れる地域では「新蕎麦まつり」なる魅力的なイベントが開かれていましたね。蕎麦は私は冬でも冷たいお蕎麦が好きです。蕎麦の香りと食感がやはり冷たいのに限ると思ひ、真冬で蕎麦は冷たいのを食べます。新蕎麦は薄い緑色で、風味がいいのが特徴です。最初はつゆにつけずに、そのまま食べるか、ほんの少しの塩をつけて食べるのが通だそうです。とはいえ、私はつゆにつけて食べるのが好きですけど(笑)あとは、蕎麦湯が最高ですね。最後に蕎麦湯を飲むために蕎麦を食べると言っても過言ではありません。美味しいお蕎麦の蕎麦湯はやはりどこか違いますから！！
厳しい寒さに向かう11月も、寒さに負けず明るく楽しく頑張りましょう！！

秋のきもの
総力祭

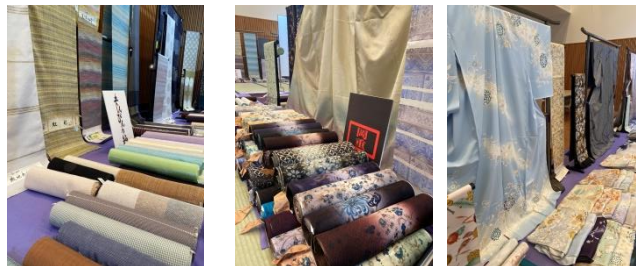
< ご来場ありがとうございました！ >

10月6日～8日までの3日間、ゆめはつとで開催しました「秋のきもの総力祭」にご来場いただき誠にありがとうございました！！たくさんのお客様の笑顔が見られて、本当に楽しい3日間でした！11月は引き続きいわきラトブでの開催となります。お客様と楽しい時間を過ごしたく、たくさんのおもてなしをご用意してお待ちしております！



初の試みでしたが、大好評の「女将のセレクト市」お客様に喜んでいただけるようなお手軽価格の物から、めったに見られない逸品まで、女将が実際に問屋に足を運びセレクトした商品が並びました。いわき店での開催も、新たに問屋に足を運び厳選して参りますので、乞うご期待！！

今回は、米沢からこだわりの紬「そんぴんの紬」や、京都の友禅メーカー「岡重」の商品もラインアップし、会場が華やかになりました。また、特別価格のフォーマルセットもこのお値段とは思えないほどの上質な商品が揃いました。一見の価値ありの「秋のきもの総力祭」、次回はいわきラトブでみなさまのご来場お待ちしております！！



秋のきもの総力祭inいわき
11月10日(木)～12日(土)

いわきラトブ 6階企画展示ホール
10時～18時(最終日は16時まで)

< よろづ屋 きものがたり～京鹿の子絞り～ >

全国の紬や染めの産地のお話や、きものまつわるあれこれをご紹介しますコーナー
第23回目は、人の手間から作り出される緻密な絞り

絞りの風合いと立体感が本当に可愛くて大好きです。



京鹿の子絞(きょうかのこしぼり)は、京都府一帯で作られている染織品です。布を糸で括って染め上げる染色技法の1つで、括られた部分が染色されずに白く残ることで模様を表現します。染め上がった模様が子鹿の斑点を連想させるため、「鹿の子絞」と呼ばれるようになりました。

代表的な技法は「足田絞(ひったしぼり)」や「一目絞(ひとめしぼり)」などで、全部で50種類以上にのぼります。1人1種類の技法を有す技術者が1粒ずつ括り上げ、その特殊な技法に合わせた染色を行います。京鹿の子絞の特徴は、複雑で精巧な括り粒です。精緻(せいち)な括りで表現される独特の立体感は、他の技法ではみることができません。他の染色に比べて完成までの期間が長く、総絞りでは1年半、振袖では2年以上かかることもあります。



着物や帯などの和装素材として長い間伝承されてきましたが、柔軟な発想の転換により、現在ではファッションやインテリアにも取り入れられるようになってきました。絞り染めは世界各地でみられる染色技法で、その始まりはインドとされています。日本には仏教などとともに関わったとされ、6～7世紀頃には日本各地で行われていました。最古の記録は「万葉集」で、平安初期の歌人が絞り染めについて詠っています。10世紀には宮廷衣装の模様にも用いられるようになり、室町時代から江戸時代初期にかけて「辻が花染(つじがばなぞめ)」として一世を風靡しました。また、各地で技法が改良され、京都一帯では「かのこ」「鹿の子絞」「京鹿の子絞」と呼ばれる技法が確立され、17世紀末には最盛期を迎えます。奢侈(しゃし)禁止令により、贅沢品とされた絞り染めが姿を消した時期もありましたが、その高度な技法は、現在に至るまで着実に受け継がれています。



一方、他の伝統工芸品と同様に後継者不足に直面しており、京鹿の子絞を未来に受け継ぐため研修会や展示会などを通して、若い年代に魅力を発信しています。

着物のお手入れあれこれ

着物のお手入れはめんどだし、お金もかかるし…など、着物は着たいけどお手入れのことまで考えると難しいと思っている方も多いと思います。めんどなことはプロに任せて、自分でできる範囲であれこれやってみませんか？知っておいて損はないお手入れのあれこれ教えます。

<お手入れその1 丸洗い>

絹でできている着物は、家庭で洗濯することができません。これはプロに任せるお手入れです。着物の丸洗いは、洋服のドライクリーニングを応用したものです。ドラム式洗濯機械と石油系溶剤を使用し、着物を解かずに、お仕立上りのまま洗います。衿についたファンデーション汚れなどは、自分でお手入れもできますが、当店では、丸洗いの前に手作業で衿と袖口と裾の汚れ落としをしてから丸洗いをします。汚れがひどくスレなどになっている場合は完全に落とすのが難しい場合もあります。丸洗後は適切な空調管理のもと、一枚ずつ形を崩さないように着物ハンガーに掛けて自然乾燥させ、溶剤の臭いも完全に飛ばし、ふわっとした仕上がりにします。専用のアイロンを使用し、着物にシワが残らない様、一枚一枚丁寧に、着物に直接アイロンをあてずに、蒸気で形を整えながら仕上げで新しいたとう紙に入れます。丸洗いのタイミングは、袖口や裾の黒ずみが出てきたり、膝やお尻部分がヨレっとしてきたらです。1回着ただけで洗うのはもったいないですが、シーズンオフや長期間しまい込む時は洗っておいた方がいいです。

今月のおススメ！



こたび®
3,300円(税込)

今回のおススメ商品は、「こたび」です。8月、9月に開催した「ゑびす足袋」のお見立て会で大好評だった「こたび®」は様々な足の悩みを解消してくれる足袋型のサポーターです。開帳足や外反拇趾になり、足の横アーチが崩れ、幅広の足になっている方や足の外側(小指側)から歩いていると認識のある方など、こたびを履くことによって足の重心が変わり、正しい足のアーチを作ることができます。土踏まずが刺激され、歩度にポンプのような役割をしてくれるので、血流が良くなり、冷え性の方、疲れやすく、むくみやすいと自覚されている方にオススメの商品です。残念ながらお見立て会に来られなかったお客様のため、当店では全サイズの見本を常備しました！自分にピッタリのサイズとカラーを選んで注文という形になります。いつでもお試しできますので、希望されるお客様は事前にお問合せください。私は、こたびを履いてから靴下を履いています。「歩くのが楽になった」「腰の痛みが改善された」などうれしいお声も届いています！ぜひお試しください！



…若女将のつぶやき…

先月、レベル51になりました！(お誕生日でした)誕生日といっても若い頃のようにはいやいで喜べない年齢になりましたが、やっぱりうれしいものですね。友人たちが祝ってくれましたが、お店を予約したのは私…どこかへ出かけたり、旅行に行く時も全て手配と予約は私…良い友人を持ったものです。予約の際にさすがに自分で誕生日ということをご報告しませんが、ちゃんとお誕生日プレートが用意されました。だったら予約もしてよ(笑)原町店スタッフの裕美ちゃんといわき店スタッフ齊藤さんも10月生まれ！みんなで仲良くレベルアップいたしました♡

